

# 富山スタディで得られたデータの 保存管理と活用 (分担研究：統計解析・疫学に関する研究)

五十嵐 正統<sup>1</sup>、松原 勇<sup>2</sup>、山上 孝司<sup>2</sup>

要約：富山スタディのデータの保存方法として光ディスクと磁気テープの2本立てで行うことを提案した。データの管理はその公共性に鑑み、富山スタディを実施する組織（小児期からの健康づくり推進協議会）が行うものとした。3才児アンケートの結果は地域医療計画作成の資料、肥満児教室の資料等にすでに活用されつつある。また対象者の保護者に対しては、市町村の公報で結果を知らせていく準備を進めている。対象児の他のデータの利用についても検討を始めている。

見出し語：富山スタディ、データ管理、データの活用、データの公表

## 1. データの保存方法

基本的な考えとして、安全性の確保と将来の大容量・高速処理の必要性を考慮し、以下の2つの方法で二重に保存することにした。

1) パソコンに光ディスク(OM)を接続し、1年分(約1万人)のデータを1枚の光ディスクに保存する。保存形式はMS-DOSのテキストファイル(アスキーコード)と2つのメディアで保存すればいずれも対応できる。また2種類のメディアで保存しておくことにより、データ保存の安全性も確保され

する。

2) 大型コンピューターで利用できるように、一旦データを大型コンピューターへ移して磁気テープ(MT)一本に1年分を保存する。形式はIBM形式(エビスデックコード)のシーケンシャルファイルとする。将来パソコン上で追跡調査データを追加するにしても、大型コンピューターで分析するにしてもこの。プライバシー保護の観点より、各データ中にはID番号のみしか入力せず、ID番号と住所・氏名を対応させたものを別のファイ

<sup>1</sup>自治医科大学地域医療学 (Department of Community and Family Medicine, Jichi Medical School)、<sup>2</sup>富山医科薬科大学保健医学 (Department of Community Medicine, Faculty of Medicine, Toyama Medical and Pharmaceutical University)

ルに保存する。

## 2. データの保存場所と管理責任

保存場所は当面、富山医科薬科大学保健医学教室内に設置した鍵のかかるファイルボックスとする。管理責任はデータの公共性に鑑み、平成5年5月中に発足予定の「小児期からの健康づくり推進協議会」（前掲）が持つことにする。データの利用については全てこの協議会あるいはこの下に置かれる運営委員会の承認を必要とする。

## 3. データの活用

この研究の本来の目的である、小児期の生活習慣と将来の成人病発症との関係を検討する以外に、それぞれの段階で得られた情報を地域・学校・職場等の健康づくりに利用していくべきである。今回は現在進行中の3才児健診時のアンケートの活用方法について述べる。

1) 地域医療計画作成の資料として富山県は4つの医療圏に分かれており、それぞれの医療圏で地域医療計画が作成されているが、すでに高岡医療圏の医療計画作成段階において、今後の成人病予防の推進という観点から今回のデータの解析結果が資料として利用された。

2) 肥満児教室等の資料として各保健所では肥満児教室が実施されているが、小矢部保健所ではこの教室の資料として今回のデータの解析結果を利用しようとしている。3才児アンケートにおいては幼児の身長・体重の他に、両親の身長・体重が記載されている点や、1日当たりの各種の飲み物の摂取量、運動量、

夜食・間食の頻度や内容等の項目があることにより、小矢部保健所管内における肥満児の特徴を見い出したいとしている。

また黒部保健所では地域に「子供の健康を考える会（仮称）」という組織を作ることを計画しており、この組織の運動の参考資料として今回のデータを利用したいと考えている。

3) 対象児の保護者に対するデータ結果の還元各市町村や市町村の保健センターが発行している公報に今回のデータの解析結果を掲載してもらい、対象幼児の保護者へのデータ結果の還元を行う予定である。また県下の幼稚園及び保育園の園長会議を通じて各園にデータの解析結果を渡し、園報などで園児の保護者に知らせてもらうことも計画している。

## 4. 他のデータの利用について

対象児に関する他のデータとしては、市町村が実施している9ヶ月児、1才6カ月児健診のデータ、保健所が実施している4ヶ月児、3才児健診のデータ、保護者が保持している母子手帳などがある。このうち3才児健診のデータについては、通常5年間保存となっているところを今回の対象者である平成元年度生まれの幼児に関しては永久保存するという申し合わせがすでにできている。データの内容については現時点ではコピーできないということなので、将来必要な項目が出てきた時に調査することになるものと思われる。

一方市町村が実施している健診のデータの取り扱いについては、「小児期からの健康づくり推進協議会」において協議する予定である。

母子手帳に関しては、各保護者は少なくとも小学校入学時までは保存していると考えられるので、もし必要な項目が出てきた時には小学校1年生の調査時点で学校を通して集め、転記あるいはコピーした後保護者に返却する予定である。

#### 5. 終わりに

最後に本富山スタデイのデータ保存・活用上の留意点をまとめてみると、

- (1) あらゆる関係団体と協力し、可能な限りのデータを集める、
- (2) 様々な機会を利用してデータの解析結果を公表する、
- (3) 関係諸団体にそれぞれの持ち場でデータを活用してもらおう。
- (4) プライバシーの保護には特に注意するなどとなる。

本富山スタデイを成功させることにより、健康増進・成人病予防という1つの目的のもとで各関係団体の横のつながりが強化されるとともに、個人の健康を生涯に渡って縦に追求して行く先鞭をつけることになるものと思われる。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:富山スタディのデータの保存方法として光ディスクと磁気テープの2本立てで行うことを提案した。データの管理はその公共性に鑑み、富山スタディを実施する組織(小児期からの健康づくり推進協議会)が行うものとした。3才児アンケートの結果は地域医療計画作成の資料、肥満児教室の資料等にすでに活用されつつある。また対象者の保護者に対しては、市町村の公報で結果を知らせていく準備を進めている。対象児の他のデータの利用についても検討を始めている。